

長崎県の基盤整備事業の効果事例集（その４）

農業農村整備優良地区コンクール 農業生産基盤整備部門

3年連続受賞

1. 平成27年度 農村振興局長賞受賞 山田原地区（雲仙市）・・・P1
●新規作物（ブロッコリー）の導入と氷詰め出荷による販路拡大で一大産地を形成。
2. 平成28年度 農村振興局長賞受賞 小豆崎地区（諫早市）・・・P5
●地区外からの担い手を受入れ、耕作放棄地の解消による農業生産団地を形成。
3. 平成29年度 全土連会長賞受賞 溜水・妙見地区（雲仙市）・・・P8
●営農者54人全員が専業農家。39名の認定農業者のうち31戸が後継者あり。

平成30年6月

長崎県・長崎県土地改良事業団体連合会

◆ 基盤整備事業の効果 (雲仙市 山田原地区)

【地区概要】

山田原地区



【地区概要】

- 総事業費
3,171,256千円
- 工期
H9～H21
- 受益面積
A=99ha
- 受益戸数
334戸
- 工事内容
区画整理 99.1ha
畑かん 96.8ha

【営農状況】



(ブロッコリー)



(レタス)



(キャベツ)

◆ブロッコリーの作付が大幅に拡大され、県下有数の産地となっている。その他レタス、玉ねぎ、キャベツなど様々な品目が作付され、基盤整備による新規作物の導入、農作業の省力化等の効果が現れている。

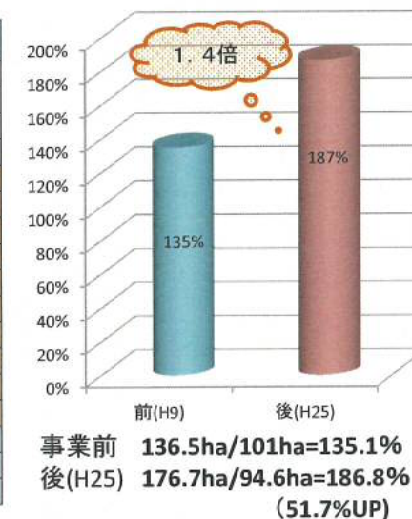


【山田原地区における基盤整備効果の発現状況】

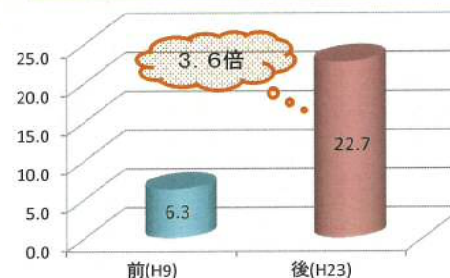
【導入作物の多様化】

(前)		(後)	
主な作物名	事業前 (ha)	主な作物名	H25実績 (ha)
水稻	1.0	水稻	0.0
ソルゴー	68.2	ソルゴー	10.1
イタリアングラス	43.7	イタリアングラス	9.3
パレイショ	23.6	パレイショ	34.2
		ブロッコリー	84.6
		キャベツ	6.7
		レタス	2.7
		玉ねぎ	5.5
		かぼちゃ	4.6
		とうもろこし	1.4
		生姜	0.3
		人参	0.8
		その他	9.7
		その他野菜	6.8
計	136.5	計	176.7
本地面積	101.0	本地面積	94.6
作付率	135.1	作付率	186.8

【作付率の増加】



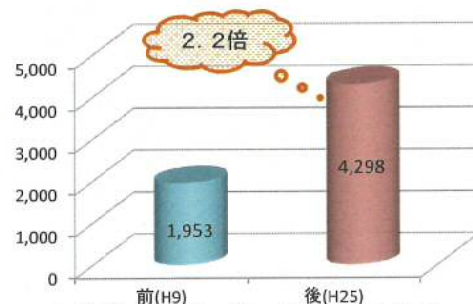
【担い手の経営規模拡大】 ※山田原地区担い手 9人



◆担い手9人の経営面積の増
6.29ha → 22.68ha (16.39ha増)

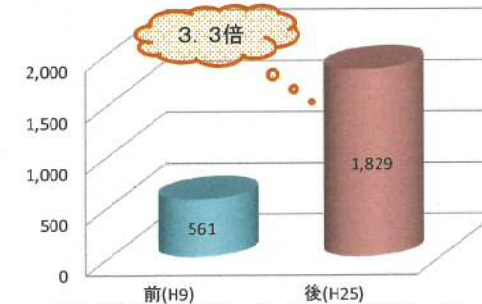
◆担い手一人当り経営面積の増
0.70ha/人 → 2.52ha/人 (1.82ha/人増)

【農業産出額(千円/ha)の増加】



◆農業産出額の増 (2,345千円/ha)
1,953千円/ha → 4,298千円/ha

【農業所得(千円/ha)の増加】



◆農業所得の増 (1,268千円/ha)
561千円/ha → 1,829千円/ha

【生産基盤整備の効果事例】 県営畑地帯総合整備事業 山田原地区
平成27年度 農業農村整備優良地区コンクール 農村振興局長賞受賞

- ・ 作付面積の増 (136.5ha → 176.7ha)
- ・ 耕地利用率の増 (135.1% → 186.8%)
- ・ 担い手の利用集積面積
6.3ha(6%) → 22.7ha(23%)
- ・ 認定農業者の増 (23人→68人)
- ・ 農業産出額の増 (2.2倍)
(H9) (H25)
1,953千円/ha → 4,298千円/ha
- ・ 波及効果：山田原第2地区
(H24～H31、A=55ha、ブロッコリー)

- 【高収益新規作物の導入】
- ・ 九州随一のブロッコリー産地の形成
H8 : 0.0ha → H25 : 84.6ha、1,130t
H27年度 販売額6億円を突破
 - ・ 畑地かんがいの効果
他市場の端境期に高価格の出荷が可能
 - ・ 氷冷箱詰め出荷による鮮度保持
 - ・ 共同選別による品質の均一化を実現
 - ・ 環境保全型農業で農産物の付加価値を向上
 - ・ 関西及び中国地方へ販路を拡大

整備前



農地面積
A=99.1ha



整備後



生産基盤整備の効果事例 山田原地区 整備後の営農状況(ブロッコリー)



大型トラクターによる耕耘作業



散水状況①



収穫状況①



土づくり状況



散水状況②



収穫状況②



定植状況



霜よけ状況



収穫・運搬状況

生産基盤整備の効果事例 山田原地区 ブロッコリーの一大産地を形成

- ・ 選果場に製氷機を設置し、発砲スチロールの箱に氷詰めで出荷。
- ・ ブロッコリーの鮮度を保ちながら、市場へ輸送。
- ・ 首都圏向けの出荷が可能となり、一大産地を形成。



基盤整備事業の効果 (諫早市 小豆崎地区)

【地区概要】



【地区概要】

- 総事業費 1,218,734千円
- 工期 H20~H27
- 受益面積 A=38.9ha
- 受益戸数 177戸
- 工事内容
 - 区画整理 38.9ha
 - 農業用排水 38.9ha



【営農状況】



(玉ねぎ)



(ばれいしょ)



(菊)

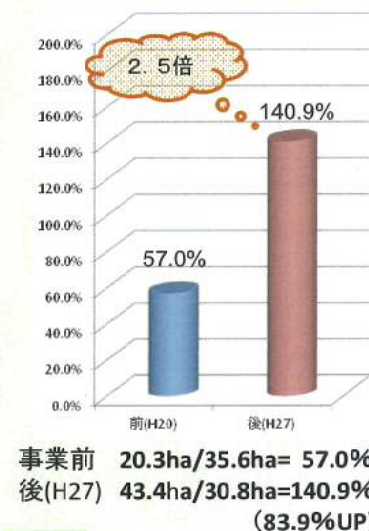
◆主に農作物は玉ねぎ・ばれいしょが作付され、菊などの施設園芸も規模拡大が図れている。基盤整備による大区画化・パイプラインの新設により、農作業の省力化・担い手農家への集積等の効果が現れている。

【小豆崎地区における基盤整備効果の発現状況】

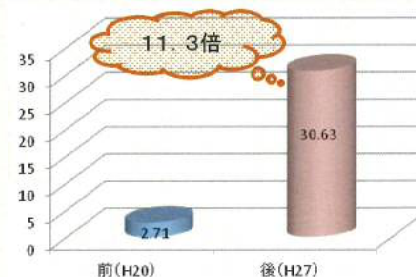
【高収益作物への転換】

主な作物名	事業前(ha)	主な作物名	H27実績(ha)
玉ねぎ	14.2	玉ねぎ	15.1
ばれいしょ	2.6	ばれいしょ	17.2
キク	0.1	キク	2.0
スターチス	0.1	かぼちゃ	1.6
かんしょ	0.4	にんじん	2.7
なし	0.4	きやべつ	0.2
みかん	0.3	ほうれんそう	0.8
くり	0.2	すいか	0.6
梅	0.1	その他	3.2
かぼちゃ	0.1		
にんじん	0.7		
だいこん	0.1		
はくさい	0.1		
さといも	0.1		
きやべつ	0.2		
レタス	0.3		
麦	0.3		
計	20.3	計	43.4

【作付率の増加】



【担い手の経営規模拡大】 ※小豆崎地区担い手 24人



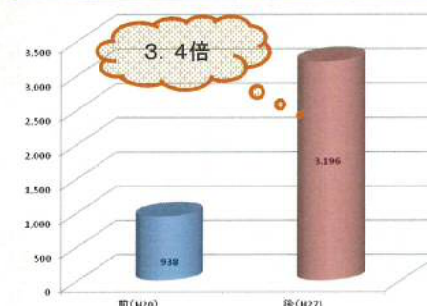
- ◆担い手24人の経営面積の増 2.71ha → 30.63ha (27.92ha増)
- ◆担い手一人当り経営面積の増 0.19ha/人 → 1.28ha/人 (1.09ha/人増)

【農業産出額(千円/ha)の増加】



- ◆農業産出額の増 (4,514千円/ha) 2,048千円/ha → 6,562千円/ha

【農業所得(千円/ha)の増加】



- ◆農業所得の増 (2,258千円/ha) 938千円/ha → 3,196千円/ha

【生産基盤整備の効果事例】 県営畑地帯総合整備事業 小豆崎地区
平成28年度 農業農村整備優良地区コンクール 農村振興局長賞受賞

- ・耕作放棄地の解消 (23.8ha)
- ・作付面積の増 (20.3ha→43.4ha)
- ・耕地利用率 (57.1%→140.8%)
- ・地区外担い手の参入 (14経営体)

- ・認定農業者の増 (14人→24人)
- ・担い手等の利用集積面積
(2.71ha(7%)→30.63ha(79%))

畑地かんがい施設整備による効果

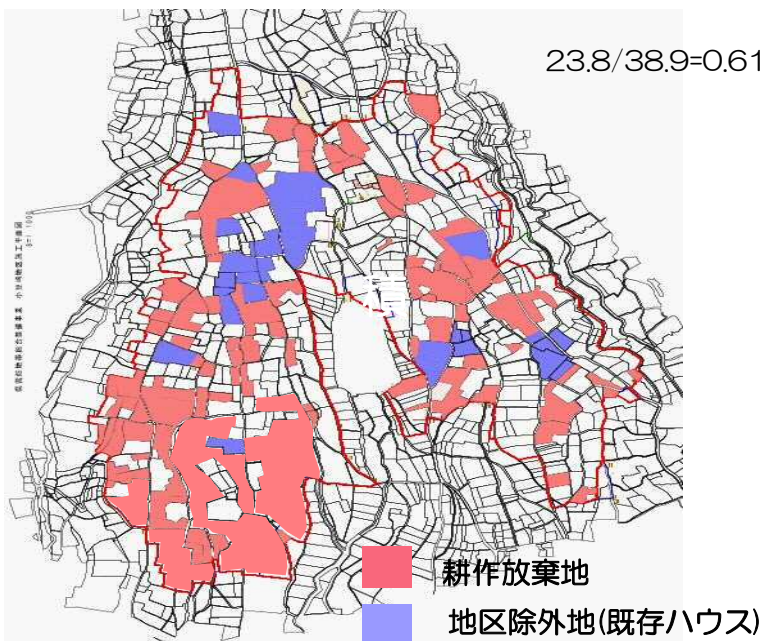
- ・施設園芸（ハウス）の増加
- ・新規作物の導入（ホウレン草など）
- ・反収の増、労働時間及び生産費の減

その他の効果

- ・後継者の育成、栽培技術の向上
- ・雇用の創出、周辺地域への波及

整備前

約6割が耕作放棄地

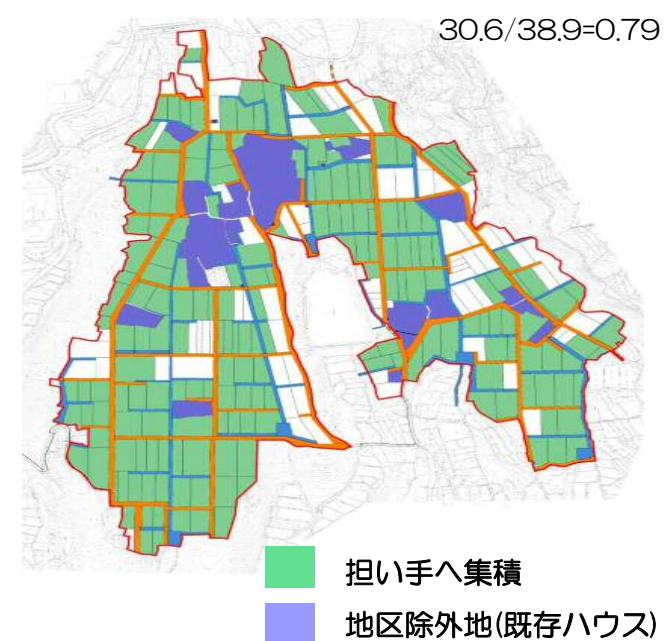


受益面積
A=38.9ha



整備後

約8割を担い手に集積



生産基盤整備の効果事例 小豆崎地区 整備後の営農状況

ばれいしょの植付



ばれいしょの収穫

建設中のハウス



たまねぎへ散水



たまねぎの収穫



菊の栽培状況



にんじんへ散水



にんじんの収穫



新規導入のハウレン草



基盤整備事業の効果（雲仙市 溜水・妙見地区）

【地区概要】

溜水・妙見地区



【地区概要】

- 総事業費
1,639,300千円
- 工期
H10～H16
- 受益面積
A=43ha
- 受益戸数
112戸
- 工事内容
区画整理 43.0ha
畑かん 42.0ha

【営農状況】



（ばれいしょ）



（レタス）



（ブロッコリー）

◆事業前はほとんどバレイショの単一栽培でしたが、基盤整備後はレタス、かぼちゃ、ブロッコリーなど新しい品目が作付され、新規作物の導入、農作業の省力化等の効果が現れています。



【溜水・妙見地区における基盤整備効果の発現状況】

【導入作物の多様化】

（前）		（後）	
主な作物名	事業前(ha)	主な作物名	H27実績(ha)
馬鈴薯	57.9	馬鈴薯	45.7
玉ねぎ	7.3	玉ねぎ	0.3
レタス	2.5	レタス	30.2
		かぼちゃ	1.1
		ブロッコリー	0.4
		とうもろこし	0.3
		キャベツ	0.6
		緑肥	7.1
		その他	0.1
計	67.7	計	85.8
本地面積	41.20	本地面積	39.10
作付率	164.3%	作付率	219.4%

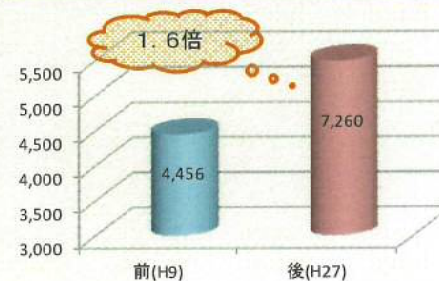
【作付率の増加】



【地区内における担い手の経営規模拡大】 ※溜水・妙見地区担い手 6人



【農業産出額(千円/ha)の増加】



【農業所得(千円/ha)の増加】



【生産基盤整備の効果事例】 県営畑地帯総合整備事業 溜水・妙見地区
平成29年度 農業農村整備優良地区コンクール 全土連会長賞受賞

- ・ 作付面積の増 (67.7ha → 85.8ha)
- ・ 耕地利用率の増 (164.3% → 219.4%)
- ・ 認定農業者の利用集積面積
9.3ha(24%) → 34.1ha(87%)

- ・ 農地所有者86人 (営農者54人全てが専業)
- ・ 32名が全農地を認定農業者に貸付 (6.6ha)
- ・ 認定農業者の増 (6人→39人)
- ・ 後継者：2世代営農25戸、3世代営農6戸

【畑地かんがい施設整備による効果】

- ・ 産地化・ブランド化 (レタス)

H13：2.5ha、46t → H27：30.2ha、1,080 t

- ・ 反収の増 (レタス) 86%増

H 9：1.93t/10a → H27：3.60t/10a

【その他の効果】

- ・ 地区外への出作による規模拡大
- ・ 波及効果：雲仙市で2地区目、その後2地区完成 (138ha)、実施中6地区 (370ha)

整備前



農地面積
A=39.1ha



整備後



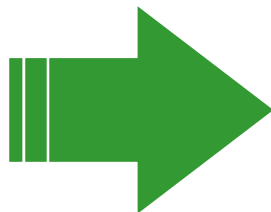
【生産基盤整備の効果事例】

溜水・妙見地区 営農状況の改善

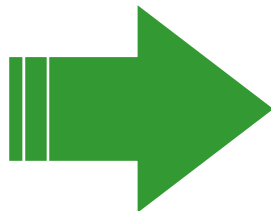
整備前



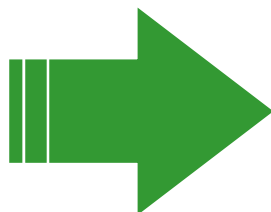
レタスの収穫・
運搬・出荷状況①



レタスの収穫・
運搬・出荷状況②



馬鈴薯の収穫・
運搬・出荷状況



整備後



H29～H33 長崎県の農地基盤整備(区画整理)事業 予定位置図

